

スペースポートを巡る 海外動向について

一般社団法人Space Port Japan
2026年7月1日

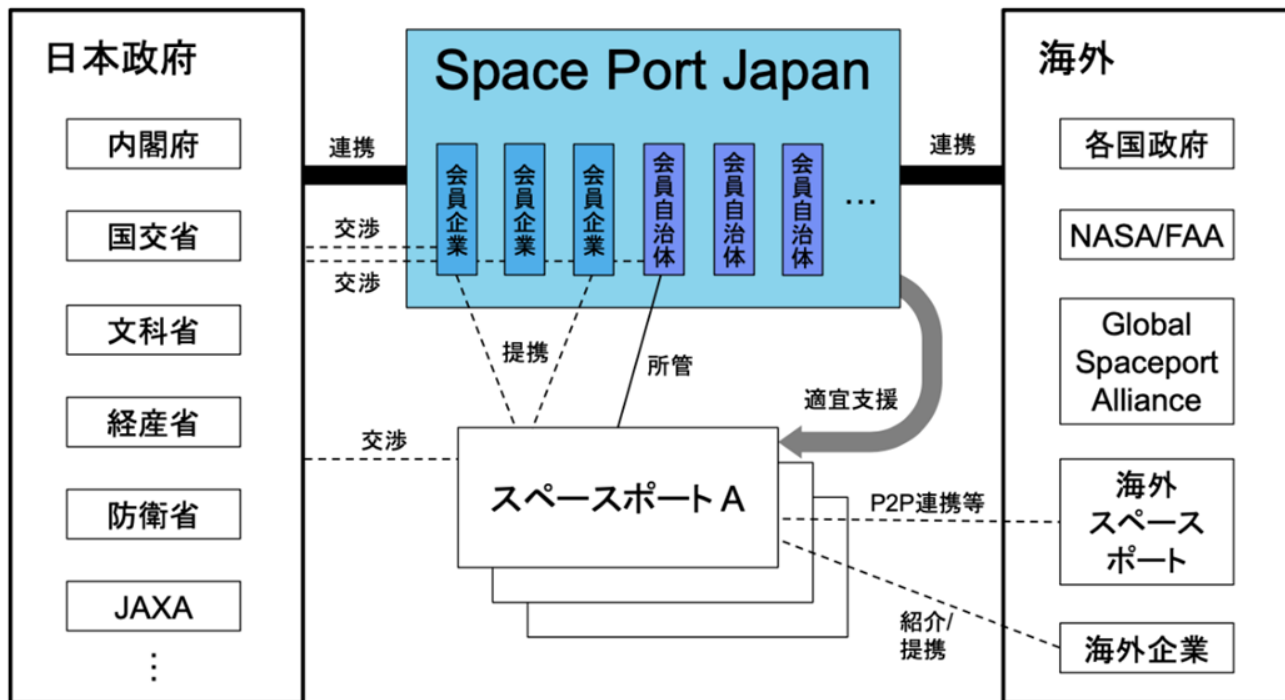
Space Port Japanの紹介

Space Port Japanについて

- 法人名：一般社団法人Space Port Japan
- 設立：2018年7月
- 目的：日本に複数のスペースポート（宇宙港）を開港することをもって
広く日本の宇宙関連産業を振興する。そして将来は日本製の有人
スペースプレーンが日本のスペースポートに就航することを目指す。
- 主な活動：当法人が日本におけるスペースポートのハブとなる
 1. ビジネス機会の創出
 2. 政府機関との連携
 3. 国内外の関連企業および団体との情報交換および連携
 4. 情報発信、勉強会やイベントの開催 など
- URL：www.spaceport-japan.org

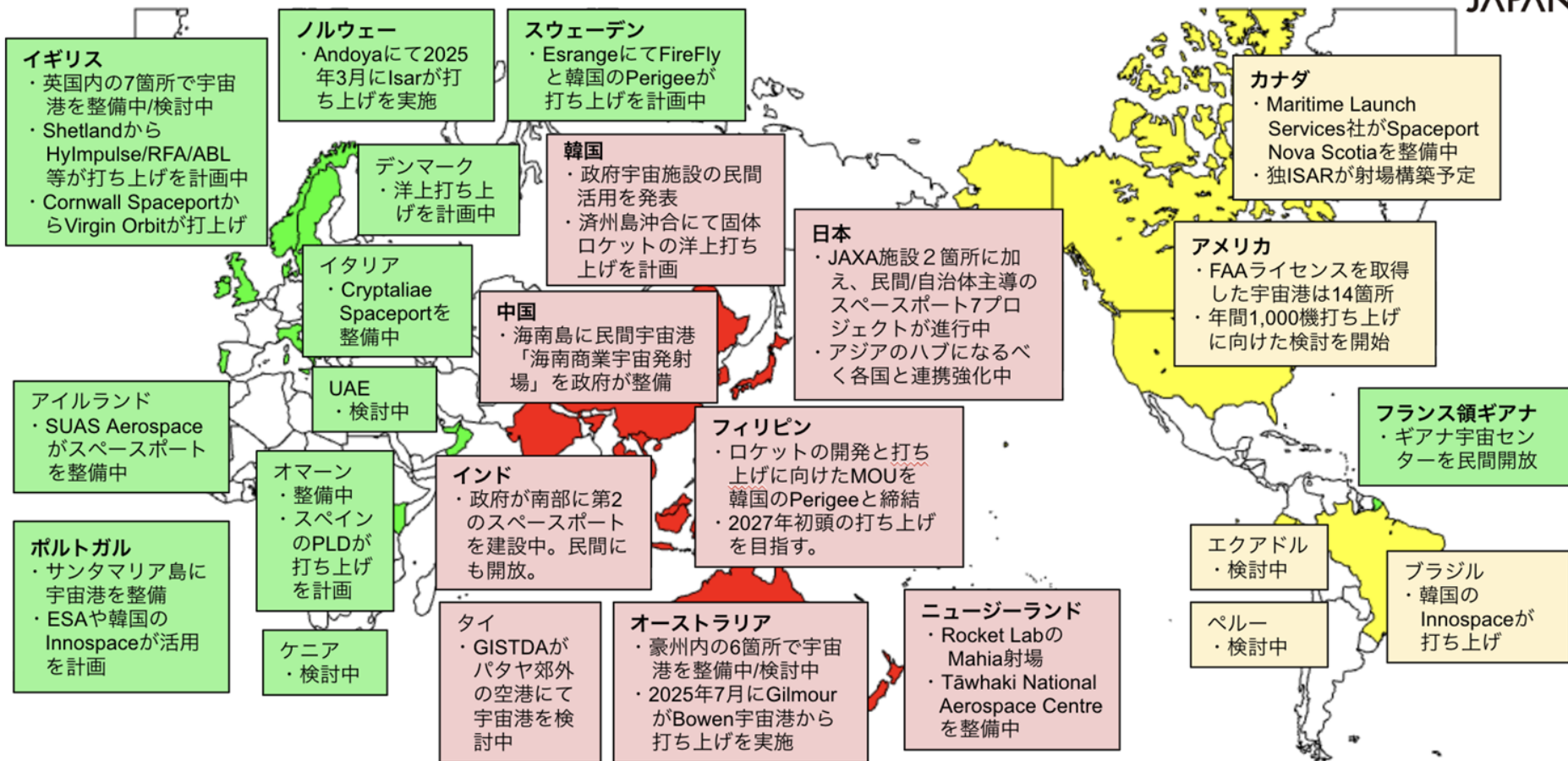
Space Port Japanの役割

長期的な目線に立ち、ルール作りや政策作りに参加。各スペースポート、自治体、機体メーカー等が連携することで、動きを加速させる（海外連携は必須ではない）



海外スペースポートの現状

世界の主なスペースポートの検討・開発状況



海外スペースポートに関する直近のトレンド

1. 国家インフラとしてのスペースポートの重要性が増している
2. 国際間連携がさらに加速
 - ロケットの輸出入が増加
 - 政策・規制の国際調和（宇宙版BASAの議論）
 - ロケット技術を保有しない国によるスペースポート計画が増加
3. Home and Away方式のロケット企業が海外で急増
 - 自国（もしくはメインのスペースポート）に加え、第2第3のスペースポート拠点を構える企業が増加している
 - 顧客が求める場所からの打ち上げにシフト
4. 主要国では政府射場の民間開放が加速

まとめと要望

まとめと要望

1. 日本政府の宇宙予算の多くが海外ロケット企業及び海外スペースポートに流れている現状を止める必要がある
2. スペースポートの競争は激化しており、日本としてもスピーディーな対応が必要。特に、インフラ整備とスペースポート運営の両面で国・自治体の支援が必要（国家インフラとしてのスペースポートの位置付け→JAXA施設にも民間施設にも資金が必要）
3. 宇宙活動法における有人ガイドラインなど新しい形態の宇宙輸送に対応できる道筋を早期に立てる必要
4. リスクを取って取り組んでいる事業者の支援の強化
5. 内需拡大が見込める場合、海外連携も支援すべき。TSAの締結は早急に